

DX実現までは長い道のりです。私たちがお客様のDX実現に伴走します！

さあDXはじめましょう！

今こそ知りたいDX/
vol.4

前回Vol.3では、2025年の崖とシステムのサイロ化についてご説明させていただきました。また、攻めのDXと守りのDXについても簡単な事例でご紹介いたしました。守りのDXで社内やお客様、ビジネスに必要な情報を正しくデジタルデータ化し、そのデータを攻めのDXで最大活用する、それこそがデジタルイゼーションからデジタルライゼーションへのステップです。今回は守りのDX、つまりBack OfficeのDXについて詳しくご説明いたします。



Vol.1からVol.3までの整理と押さえておくべきポイント

Vol.1の整理とポイント

DXって何？何をすれば良いの？

～概念的で時間とコストもかかりそうなDX…
だけどこれからのデジタル社会では避けて通れない！～

- DXとは、企業活動をデジタル技術とデジタルデータを活用して加速度的、飛躍的に成長させていくこと！企業活動全体を俯瞰し、デジタル化されたデータをデジタル技術で活用することがスタートです。
- デジタル技術、つまりITシステムファーストはNG。お客様の情報が一番大事！その情報が正しく、新しく、必要な人が利用できることはもちろん、セキュアであることが重要です。
- デジタル化するべき情報を特定し、デジタル化。すべての仕事のプロセス、業務、作業に正しく有効に活用できる仕組みを整える。それがデータドリブン！データがすべての仕事の意思決定基盤になること、これこそがDXの1丁目1番地です。



Vol.2の整理とポイント

デジタルイゼーションとデジタルライゼーションって？

～まずはしっかりデジタルイゼーション！情報の正しいデジタル化です。
次のフェーズはデータ活用最大化、つまりそれがデジタルライゼーション！ビジネスモデルイノベーションの実現です！～

- デジタルイゼーションは情報のデジタル化。PCで資料を作成したり、PCやシステムを活用して作業を行うこと。効率化やコストの削減のフェーズ。情報の5S活動やライフサイクルを見直していきましょう。
- デジタルライゼーションは、デジタル化されたデータを活用し、これからのビジネスや企業の将来に役立つデータを生み出し、新たな顧客や利益を創出するフェーズ。お客様が保有する情報・データがその基盤です。
- デジタルイゼーション、情報や作業のデジタル化の余地を探しましょう。またその情報や作業がお客様に近いのか(Front Office)、それとも社内業務に近いのか(Back Office)をカテゴライズし、解決の優先順位を決めていきましょう。



Vol.3の整理とポイント

2025年の崖って？システムのサイロ化って？どんな問題が起きるの？

～2025年の崖は日本企業に大きなダメージを与えます。
それは大企業に限ったことではありません。その要因はレガシー化とサイロ化です。
データが最大活用されるよう、まずは社内のサイロを取り除きましょう。～

- システムのサイロ化は大切なデータの通行を妨げます。全社、部門の情報の流れを見直し、まずは部門内のサイロを覗いてみましょう。2025年の崖問題解決への第一歩、DX推進にもつながります。
- 攻めのDXと守りのDXを連携させましょう。レガシーな顧客情報、つまり単なる住所や法人名、電話番号等のデータだけでは攻めと守りが噛み合いません。顧客のニーズやインサイト、体験がデジタル社会の新しい顧客情報です。
- レガシーシステムは、守りのDX(Back Office)に多く見られます。基幹システムを中心に、ブラックボックス化したシステムやデータをクリアにしていきましょう。特に、属人化しているシステムや部分最適な運用はDXの最大の足かせになります。



ビジネスのGOAL お客様やマーケット

digital data

フォワード

- ▶ 営業活動や生産・製造活動、つまり企業コア事業のテクノロジー活用
- ▶ 対面での顧客ニーズやインサイト、顧客体験の収集と共有へのディレクション
- ▶ WEBサイトやメールマガジン、SNSによるデジタル情報発信とセールス活動の融合

ミッドフィールダー

- ▶ コンテンツ制作、プロモーション企画、ウェビナー企画
- ▶ CRM運用や顧客関係に基づいたペルソナ設計
- ▶ インサイドセールスやデジタルマーケティング基盤構築

ゴールキーパー

- ▶ 決算や税務申告、帳簿作成などの正しく早い財務会計のためのデジタルフロー化
- ▶ 資産や備品、車両管理、防災防犯対策と社員安全健康管理とBCPのデジタルフロー化
- ▶ 人事・企業・機密情報の安全基盤とハラズメント、コンプライアンスのデジタルフロー化

ディフェンダー

- ▶ BCPやDX、コンプライアンスを網羅した、ルールとICTインフラ整備
- ▶ 情報管理を徹底したセキュアな顧客データベースの構築とCRM連携
- ▶ 採用から育成、評価、離職防止と既存人事情報と融合したマネジメント

守るべき GOAL

フロントオフィス攻めのDX

バックオフィス守りのDX

Back Officeの仕事って…?

とても大切な仕事です

Back Officeの業務は、あらゆる事業活動の基礎をなし、会社が事業を営む上で必要不可欠なものでしたし、これからさらに重要な仕事になっていくことでしょう。

時代の変化に伴い新しいミッションが生まれ仕事の進め方が変わってきています。

テクノロジーの進化、グローバル化、自然災害、パンデミック、人材不足、働き方改革…。そのようなトレンドや課題を見据え、事業環境を適切に予測していくことが必要になっています。

今まで通り、会社のディフェンダーとして守備を固めることは重要です。業務のデジタル化やオートメーション化による効率性の向上やコストの削減は会社を守る大切なミッションです。

一方で「攻め」も必要です。これからのBack Officeの新しいミッションと言えます。Front OfficeのPlayerにデータ(ボール)のパスを出すことで収益を生むことを可能にします。

Front Officeの後方支援というポジションに加えて攻撃の起点としての役割も求められるようになりました。様々なところから飛んでくるデータ(ボール)を確実に捕まえ、前に蹴り出しましょう!

「経理の仕事」「人事・労務の仕事」「総務の仕事」について、目指すべきDXを見てみましょう!



人事労務部門の仕事と目指すべきDX



これからも重要な仕事の例

- ▶ 自社戦略にコミットできる人材採用と離職防止
- ▶ 柔軟な働き方の実現を促進し社員のモチベーションアップを図る勤怠管理
- ▶ 数字だけにとらわれない多角的視点による評価

デジタイゼーション

- ▶ 人事労務管理システムの導入やクラウド化による自動集計や給与計算との連動、テレワークへの対応
- ▶ ERP導入による給与と会計と人事労務のシームレスな連携
- ▶ 人材の社歴、実績、能力や特性データの生成

デジタライゼーション

- ▶ AI分析の導入による課題対応型の人材配置や異動、組織づくり、job型への対応
- ▶ 勤怠データに加えて実績や能力、特性など人材に関わる全てのデータ統合による個々の生産性向上と働き方改革実現
- ▶ クリエイティビティを重視したwebサイトや動画、企業の存在意義や採用したい人材を明確に発信する

デジタル社会の新しいミッション

- ▶ テクノロジー活用による人材不足問題への対策と効果的な採用の実現
- ▶ テレワークをはじめとする勤務形態の多様化、job型人事への対応
- ▶ 労働時間の適正化と労働生産性向上の両立、シナジーの創出



データ

勤怠管理や労務管理、年末調整などの人事業務のデジタル化はもとより、企業の未来にとって必要な人材の採用を実現しましょう。人事のデータと人材のデータを掛け合わせドリブン、人材や社員個々に必要なデータを提供し、自己実現に伴走することで、離職の防止と人材の成長スピード加速につながります。また、マルチチャンネルでデジタルコンテンツを活用することにより企業の求める人材の採用が可能となります。

経理部門の仕事と目指すべきDX



これからも重要な仕事の例

- ▶ ルールに則った、適正でスピーディーな経費精算
- ▶ 会社の財務を正しく可視化、分析し、次年度以降の戦略策定の基となる決算処理
- ▶ 税法を遵守した迅速確実な税務申告

デジタイゼーション

- ▶ 領収書や帳票のスキャンと電子保存
- ▶ 会計システムを他の基幹と連動することによるデータの共有
- ▶ 経費精算処理のデジタルワークフロー

デジタライゼーション

- ▶ 財務データ分析から各科目の細分化された問題点の可視化と経営層へのフィードバック
- ▶ AIによる経費チェックと経費削減戦略の策定
- ▶ ダッシュボード等を活用した財務状況のリアルタイムモニタリングや予測、収支・支払管理

デジタル社会の新しいミッション

- ▶ 財務データ分析による経営課題の抽出と戦略立案を行う攻めの経理へ
- ▶ 定型業務の可視化とテクノロジー活用への転換(RPA・AI)
- ▶ AIによる予測、分析を通したリスク回避



データ

実績処理のような定型的業務にRPAなどのテクノロジーの活用によって労力や時間を削減。AIや機械学習を利用し正確性の高い未来財務予測や戦略策定を実現します。そこから導き出されたデータをFront Officeへパス、Front Office Playerの経費処理等のBack Office業務の簡略化が進むことで本来のコアビジネスに傾注できるようになります。

総務部門の仕事と目指すべきDX



これからも重要な仕事の例

- ▶ 働きやすいオフィス創り、緊急事態の際も事業を継続するための対策
- ▶ コンプライアンス経営の徹底と正しい契約管理
- ▶ SDGsやCSRなど企業の社会的評価を高めるための広報活動

デジタイゼーション

- ▶ それぞれのデータの保全とIT基盤、セキュリティ基盤の整備
- ▶ 契約文書、社内文書の電子化によるオフィススペースの確保
- ▶ テレワークを主とするABW(Activity Based Working)の実現

デジタライゼーション

- ▶ 車両管理や運行安全管理、備品や資産のデータをシステムと連動させ、会社の財務強化
- ▶ 契約や文書入力のリPA化やチャットボット導入による社内外からの問い合わせ対応効率化
- ▶ BPOが可能な業務の洗い出しとアウトソーシング

デジタル社会の新しいミッション

- ▶ 社員がABWを実感できる働き方、働く場所、働く時間の提供
- ▶ BPOも視野に入れた「ヤメル」「ワタス」「ノコス」業務の可視化と「ノコス」業務のデジタルフロー化徹底
- ▶ BCP策定、法令遵守、社員の安全やハラスメント未然防止のための社員教育や監視のデジタル化



データ

ABWを推進するためのルール策定や変更による社員のモチベーションアップは総務の重要ミッションです。「何でもやる」というのではなく、今後も総務部門が自社内で取り組むべき業務の洗い出しが必要であり、「ワタス」べき業務をアウトソーシングしたり、「ヤメル」べき業務はやめるといった思い切った施策も求められています。

DX推進はBack Officeから!

BackOffice業務はあらゆる事業活動の基礎をなすものであることから、影響は小さくありません。将来的にFrontOfficeのDXを実現した場合の効果最大化のためにも、BackOfficeのDXと一緒に踏み出しましょう!

お客様の成長のため、私たちがDX推進パートナーとなり、寄り添い続けます!
デジタイゼーションの見直しから始め、デジタライゼーションへのステップアップをご提案させていただきます!



株式会社六甲商会